

いわき民報

十一月十七日開業
麻雀一萬
平一丁目集樂館裏
女店員募集

戦災校復興に後援懇請

教組平支部メツセージ發送 十二日は三森氏が電波放送

教組平支部では第一國民校始の市内の戦災校復興に拍車をかけるため、全縣下に呼掛けて後援を求めた。左の如きメツセージを關係方面に發表、尙十二日の縣下總會には第一校の三森芳重氏が出席、席上これを電波に乗せて放送することに決定した。

新日本の再建は教育からといはれ、戦艦一隻の豫算を教育にかけたらと識者の間に叫ばれてゐます。誠に有難いことであるが、その歩みを遅はれてゐるもの、残念ながら遅はれてゐるものを、各位にはさきに戦災校に對し御見舞を頂き深謝致してゐます。又先般は戦災校の復興對策に關する東北大會が仙臺市に開かれ種々協議されましたが實際面に突入する迄具体的に進まぬ状態でありました。平市當局は勿論是が復

最後まで闘ひ獲れ

市郡教組團結をいよく固む 但し児童生徒は参加せしめぬ

六百圓買収の線と見做して九校で最低生活獲得臨時總會を日文科に會見した教員組合中央開き、要求貫徹の爲團結を固く代表の涙の陳情は、國民の同情して最後まで闘ふことに決議するを引いてゐるが平市及石城郡のると共に左の中合せを行った。教員組合でも之に先立ち七日及一、職務に精勵すること、代八日の兩日夫々市内第三國民學表委員の授業補缺には全職員協

有権者名簿 町内會同覽

十五日から十日間脱税罪の防止に市町村會議員をはじめ各種選挙がつきつきに施行されるの町内會同覽の選考委員會では去月十日現在での有権者名簿

協組に鋭い一矢

石城郡農民聯合會準備會

草野村農民協同組合が日農同村農組と協力供米の村割當を不當とし、農民の總意を無視した非民主的

最高三萬五千圓

盛況極めた復活平の馬市

二十余年振りに復活の平名物馬高三萬五千圓、最低四千五百圓市は彌宜町馬場に九、十の兩日平均七千圓で半數以上が商談成開かれたが出場馬六十七頭、最立をみた

別時間發賣切符

十日からのダイヤ改正に伴ひ平驛では切符の發賣制限を行つてゐるが割當枚数を左の如く決定した

發賣時刻	常磐線		常磐線		局外
	近距離	房内	近距離	房外	
零時	—	10	3:00	30	10
4:30	80	20	5:00	50	20
7:00	150	20	7:30	80	20
10:00	100	10	10:00	50	—
13:00	120	20	13:00	70	20
16:00	140	20	15:00	50	—
18:00	40	—	16:00	70	20
20:00	40	—	20:00	40	10
計	670枚	100枚	計	440枚	100枚

日農代表の除名要求

郡農民聯合會が石城郡農民聯合會準備會ではさきの結成準備會で決議した左記項目について七日付を以つて開田地方事務所長に提出、その實行方を要請するところあつた

言寸きわ

二十余年振りに復活された平馬市、最高は三萬五千圓の高値を呼んで好成绩裡に終つたのは先づ目出度し

將棋會所

平市五丁目 吉田屋長堂二階
毎日八時より二十時迄

長男正夫儀

中支にて戰死致し候條茲に生前の御厚誼を拜謝し此段御通知申上候
追而送葬の儀は十一月十五日午後二時自出棺佛式を以て執行可致候
昭和二十一年十一月八日
石城郡湯本町
父 吉田 恭平
外親戚一同

長男田村豊治儀

中國湖南省に於て昭和二十一年九月十日戰病死の處今般遺骨歸還任候就而者生前の御厚誼を拜謝し併而此段御通知申上候
尙吉別式は十一月十四日午後一時より二時迄自宅に於て相營可申候
昭和二十一年十一月十一日
平市播磨小路四番地
父 田村 岩雄
親戚 田村 五郎

誠義院

葬送の際には遠路御會葬被成下候へ御
御重なる御供物等を賜り有難く御厚志の段深謝候
早速拜禮御禮申可述の處作異儀以紙上御禮申候
昭和二十一年十一月十一日
平市御屋町五九
父 水野 晃

新設電話

五五六番
平市彌宜町二七
丸一製材工場
瀧口 豊
自宅電二九〇番
御用命願ひます
御相談に應じます

京染部新設

永い間御不自由をお掛け致しま
は、今度京染見本各種取揃ま
したから一般更生品染色加工を
備完機械
平市南町大通
京屋染工場

電話復活

二五五番
内郷町小島
加藤 武久

市の公民館設置計画

市内に七・八ヶ所の豫定で

市の公民館設置問題は、具体化し今月下旬準備委員を擧げて活発な活動を開始することに決定した。公費日本間をはじめ、平澤方各部の公費等七、八ヶ所を利用して市民一丸となつて民主日本再建に新發足するが活動開始は十二月中旬の豫定

十二月の木炭

生産及出荷の郡下割當決る

木炭の危機を傳へられてゐる折、郡農業者の十二月の木炭生産並に出荷豫定が決定された。

- 〔單位表、括弧内は出荷豫定數〕
- 減邊村(二〇〇)上遠野村(一〇〇)八〇〇)入遠野村(一〇〇)一五〇〇)川部村(三〇〇)一三〇〇)田人村(六〇〇)一三〇〇)磐崎村(三〇〇)一五〇〇)水戸箕輪村(五〇〇)一五〇〇)澤渡三阪村(三〇〇)一三〇〇)大野村(三〇〇)一三〇〇)上下小川村(二〇〇)一三〇〇)川前村(三〇〇)一三〇〇)三〇〇〇)合計二六一〇〇(二四〇〇)

優良産三郡 生産者表彰

縣林業の三郡優良製炭者表彰式は二十日午前十時から市公會堂日本間に舉行する。被表彰者は勿來町根木誠一さん(二四四)四十六名

糸姫さんの募集

高給で施設も完備

今月の木炭

市の十一月の木炭配割當は郡内一万六千九百五十俵の中一萬俵は八時間制で毎日曜休み、配給米は三合五勺、寄宿、醫療設備は完備して居り給料も二百五十圓から二百七十三圓迄他に物價手當、食料手當、皆勤手當等を支給する

書籍

高價に載きます 平市五丁目 片寄、書店

藁工品価格も 二倍余値上げ

藁工品の價格改正は出荷促進に相手をかけるべく協議中であつたが八日に平均二倍八分の値上げと決定十月二十二日より實施される事になつた

双葉引揚聯盟

十二日に結成式 双葉郡下引揚者の事務は従來警城聯盟で取扱つてゐたが、縣副理事長大野友春氏は双葉郡引揚者聯盟結成に奔走中の處、十二日午前十時から富岡町國民學校でいよゝ結成式を擧げる事になつた

皆様の楽しみを!!

キングレコード

家庭染料 みゆき染

有名化粧品、固型洗滌染料、玩具、文具、レコード針、甘味菓

山吉商店

平市四丁目 電二六八番

紹介畫映

品作竹松

風暴の愛

で館平らか日二十

野村浩将の原作、監督で高橋通夫のカメラ、主題歌は四條八十八の作詞で酒は涙かの古賀政男の作曲、美しいまぼろしは消えた乙女の夢の赤いけしみの花は散つたけれど私は命とたのむ藝術がある。私はそれを、しつかりと抱きしめて生きてゆく……戀と友情の十字路に立ち立ち美しく舞姫ものがたり

【配役】

千葉 恭一 上原 謙
 梶 昭 佐分利 信
 妹 あけみ 桑野 通子

秋刀魚の配給

過日市内柳町生鮮魚介販賣所で販賣した秋刀魚價格は正常価格を缺いてゐるはすまいか、或る家は八十一圓位につく、六十二圓位は家族五名で三六六圓で二の丸公のものかどうして八十一圓にもなるのであらう?最近の魚配給は又々妙なものを感ぜしめる。當局もこの際厳に査察してみても可いと思ふ

梗概

ホテルの支配人をしてゐる千葉昭は女が、西村ふみ子が好きで結婚しやうと考へてゐたが、ふみ子と結婚することは自分の職權を握りまはす様な、何となくうしろめたいやうな氣がして、どうしてもそれを言ひ出せなかつた。ところが昭が支那人就任一週年記念の會が催されたのが機会となつてふみ子と銀座で大きな真珠店を經營してゐる梶恭一との間に結婚の話がもたらがた

紹介畫映

品作映大

妹姉の使獸猛

で館樂聚らか日二十

伊豆の小さな町にサーカスの一行が入つて來た。團長の島造は二人の娘があつた、姉をくみ子、妹をゆみ子といつた。二人は一座の花形であつた。恰度この頃安田仲太郎もこの町に來てゐた。彼は久しぶりに實母の家へ挨拶に來て馬を二頭をもらつた。彼は小さい時から馬が好きで、彼は乗り手として上田進馬師などの遠乗りや上田進馬師に師事してゐた。馬で歸る仲太郎は途中でサーカスの一行と一瞥になつて仲よくなつた。

次の町の温泉町で島造は猛獸使の代役に出て虎と格闘中過つて死んで行つた。死に際島造は自分の故郷沼津に骨をうすめてくれといひ、そして娘の母は生きてゐたら沼津にゐる事などかいて一行は次の豫定地を變

理髮組合

最近理髮店の中には消滅した。仲太郎の養母は實にサーカス形式ばかりのものであるを姉のくみ子は妹の實母の現れた。みるのは遺憾である。施設してゐる以上有効に使用して衛生のため努力して欲しい

平釣人會(假稱)設立

戦争中見物遠慮であつた釣が戦前にも増して大いに復興した事は誠に嬉しい、新憲法公布成り今や平和日本建設と謂ふ新しい民族の使命のもとに、新生日本の力強い息吹きを身に感じたいと念するのであります。吾等同好の者相謀つてこの度「平釣人會(假稱)」の設立を企圖した、吾等はもとより釣にかけては素人であり何の知識をも持たぬ、只同好の士に楽しく遊び釣りに釣つて考へたのであります。同好の諸士來たつて之に加はり余幅の支援と協力を賜はらん事を希ふ次第であります

申込書

發起人 八木善吉 石川榮 薄羽仁 田原登
 安達信一 葉谷喜太郎 佐藤治郎

(電話照會の場合は平四三七・六八九三〇四)

住所 氏名
 年齢 職業

私費會に入會を申込みます
 昭和廿一年 月 日

平釣人會(假稱)御中
 申込所 平市南町四一 古川興業有限會社内

書畫骨董 古美術
 貴金屬 寶石 高價買入れ
 時計 衣類其の他

中央會館

平市南町平館四隣